NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報
第４５号（２０１３０３０８）
発行　竹 田 幸 男

■　３月例会開催

３月８日（金）、前回に続いて市民活動センター４階ワーキングスペースで開催。子ども部屋と違って椅子席なので、座りやすいが、会員同士の間隔が広くなるなど、居心地も少し変わった感じがします。

■　第２回文化連盟展開催

２月１０日（日）文化連盟加盟の団体が参加してアルカスホールで開催、展示部門はロビーでのお茶席、川柳、生花、陶芸、俳画、写真、きもの着付け、アートフラワー、書道などの展示があり、舞台部門で、映像協会は日本舞踊、

邦楽、民舞などの舞台芸術とともに竹田会長の作品「マッターホルン 見たかった」を含め４作の映像作品を出品、メインホールの大画面で映写されました。

例会の窓

■ 平成２５年３月例会

日　時　平成２５年３月８日（金）
　　１３：３０～１６：３０
場　所　寝屋川市民活動センター
　　４階　ワーキングスペース

出席者：新井　天野　石田　佐伯　竹下　竹田　谷　田渕
欠席者：１名（５０音順・敬称略）

例会次第

１．各会員の最近の活動状況・情報交換
　佐伯さんはパソコンが壊れて編集が出来ていない。

２．報告・連絡・協議事項
（１）ＮＶＣ　Ｍｏｎｔｈｌｙ３月記事筆者の件
　次回は竹下さん

（２）撮影会プロジェクトチームから（天野）
・次の撮影会について、下記のように提案する。
・日時：５月８日（水）　雨天の場合の予備日は１０日（金）
・行き先：有馬温泉
・集合：ＪＲ東寝屋川駅　８時３０分集合、京橋からの合流も可。
・食事できる場所が少ないので、当日飛び込みで探すのは大変である。

（３）第６回ビデオ作品発表会
・２５年４月２０日（土）
・今日の例会でプログラムサンプルを提示した。２２日までに竹田会長からプログラム原稿を田渕氏に渡し、印刷の上、３月末松愛会会報にプログラム折り込み依頼する。
・同時に会員募集のチラシも折り込む。Ａ３の１枚の左右に会員募集とプログラムを入れ２つ折りにする。
・従来通り１０時・１３時半の２回映写
・会員は８時４５分に集合
・さらに詳細は４月例会で打ち合わせる。
・天野さんは松愛会総会のため出席できず。打ち上げには出席する。

・田渕さんは午後の発表会と打ち上げは出席できない。

（４）映像北大阪との交流会の結果
・５人参加し（うち４人は同好会）団体ＰＲ映像を３作持参して映写、アマチュアが題材として取り上げるべき内容であることを説明して理解を得た。例会での「プロの雑学」には参考となる点が多かった。

３．作品映写
（１）新井さん　　画家たちの観光地　　１０分
　　寝屋川竹炭づくり　　１０分
いずれもコンピュータ音声であったが、最終は谷さんのナレーションが入る。

（２）谷さん　　冬と夏　孫と一緒に金剛山　８分
題名も確定して、２回にわたって登山したことがはっきり解るようになった。
（３）竹下さん　ゆうちゃん神戸花鳥園に遊ぶ　１０分
前回は大嘴鳥の説明が長かったが適当にカットされてすっきりした。
（４）竹田さん　ボヘミヤ珠玉のまち・チェスキー・クルムロフ　　６分
特に変更無し

４．会員の当面する問題点質疑応答　詳細略
５．来月の開催日（４／１２）ワーキングスペースで。
６．次回のカメラ当番（新井さん）

ハイビジョンホームビデオ雑感

竹下　功

家庭用ビデオカメラのハイビジョン化の始まりはいつからかは良く知りませんがハイビジョン動画記録フォーマットＡＶＣＨＤの出現は２００６年5月という事ですから、それ以前に異なるフォーマットの非プロフェッショナルなビデオカメラがあるかと思いますが、其れを無視しますと、２００６年と言う事になります。

我々のグループでもこの話題が出だしたのはいつ頃からか記憶していませんが、横長の画面は扱いにくいとか、機材、ソフト共に変えて行かねばならないのであまり積極的な発言は無かったと感じています。

私のような老い先短い老人にしてみれば、まあ若い方はやって下さい、私は古いソフトでもなかなか使いこなせないので、これで満足しておりますと言う

のが正直な所で、冷めた目で見ていました。
ビデオカメラも4台目、ソフトも2代目、後何年撮影したり編集したり出来るかを考えればもういいわと言うのが実感でした。
所がなんと2011年にハイビジョンのカメラを買ってしまいました。
近くの家電量販店が本当に店じまいすることになり其れを素見に行ったのが運命の分かれ目でした。
買う気は無いといいながら、普段から買うならファインダーのあるカメラ、それに3MOSのカメラで無いと、と思っていました。
其の理由はファインダは視度調整が出来る事です。特に白内障の手術をしてしまうと遠近両用の眼鏡が世の中にはありますが遠方もモニターもはっきり見えるようにするのは難しいし､明るい所ではモニターが見にくかったからです。それとカメラをしっかり保持する手を伸ばした保持姿勢ではカメラをしっかり保持するのが難しいと思えたからです。
3MOSにこだわるのは私はもともと物理屋のものですから3色別々の場所からの情報で1点の色を決めることにはこだわりがあったからです。
だからパナソニックのHDC-TM750が65000円というのを見てこれは買うっきゃ無い、このチャンスを逃すと言う事はビデオカメラはもう買わないと言う路線に入ってしまうことになる。この先気が変わっても思うようなカメラはその時にはもう無いのでは無いかと思ってしまいました。
其れで翌日このカメラを買ってしまいました。
そんなものを買ってこの先編集などどうするつもりなのと自問しました。ともかく今はカメラを買うだけ、先のことは先で考えようと先の短い身である事を忘れてカメラを手にしました。
丁度一年前のことです。
造幣局の桜が見頃というテレビを見て新しいカメラを持って出かけました。桜の花をひたすら撮って北門から京橋までへとへとになって帰宅しました。
カメラのメモリーカードを抜き取ってテレビのカードスロットに差し込むだけで美しいハイビジョンの世界が展開しました。
丁度その頃Windows Live ムービーメーカーという編集ソフトの使い方の講習会がありましたので、これに参加し「造幣局の桜」を編集してみましたが、一寸物足りない感じでした。
この時点で私はまだ本式にハイビジョン映像を編集しようという決心はしていませんでした。
そのわけはEdius等を買って使うにはパソコンから買い換えなければならないこと、それに新しい高度なソフトを使いこなす自信があまり無いことなど気の重い問題がありました。

今回発表会に出すビデオは実は初めてのEdiusを使って悪戦苦闘したハイビジョン作品ですが、昨年の５月頃に孫が来て、神戸花鳥園に行くことになり、まあついて行くのだからビデオに撮っておこうか位の軽い気持ちで、作品にするつもりは全くありませんでした。

実は私はパソコンを一昨年買い換えました。其の時点では私はハイビジョンカメラを買ったり其のビデオを編集したりすることなど全く考えていませんでした。Ediusと言うソフトの名前も知りませんでしたし、ましてそれが使えるような性能のパソコンを特に探して買った訳ではありませんでした。

ただ長く使っていたパソコン、これは我々の会が出来る前にパソコンでビデオの編集をしたいと志し、入手したもので、エプソンダイレクトで14万円ぐらいしました。

その後カノープスのDVストームのはいったパソコンをまるごと貰ってこれでもっぱらビデオを編集し、この最初のパソコンはメールなどに使っていたのですが、調子が悪くなりもう買い換えようと思って、そこそこの性能で安いものを探してGatewayのSXシリーズというものに買い換えました。

このパソコンの仕様を書いたものが無いので詳しくは分かりませんが、

プロセッサーは　Intel(R) Core(TM) i5-2210

メモリ　　4.00GB

HD　　C　　451GB

　　D　　なし

　　これに別途Eとして 公称1TB のHD を外付けしました。

OS　　Windows 7

価格　　50800 円（外付けハードデイスクの価格は別）

でした。

ついでにモニターを横長にしたので

iiyama　PLX2377-N540　17000円　でした。

それ以外には　出力をブルーレイの光ドライブにするのが最善であると言う事で、

　Buffalo のBlu-ray Drive BRXL-PC6VU2-BK 6800円

を最後に買いました。

合計で約14万円　これに外付けハードデイスクと編集ソフトで2万円ぐらいかかります。

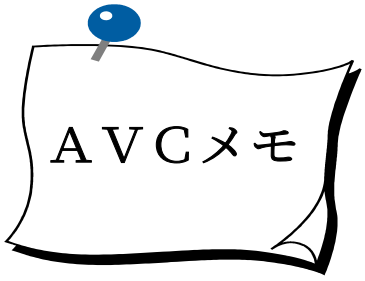
カメラは3MOS等とか言わないと最近は随分安いものがありますしハードデイスクも安くなりましたのですべて合わせて10万ぐらいでなんとかなるのでは無いかと思います。

パソコンはもっと性能の良いものを求めればもっともっと高くなりますが、

この程度のもので今のところ使用上の不具合はありませんのでまあよかったと思っています。
　何故こんな私の家計簿を公開したようなことを書いたかと言いますと、ハイビジョン化はもはや避けては通れないからです。それならばなるべく早く切り替えようではないか、決断を鈍らせるものは何か、と考えてみますと

①機材を買い揃えなければならない。最低どれぐらい費用がかかるだろうか。
②編集ソフトは使いやすいものだろうか。
　　と言った壁があるためだと思います。

①の答えが私の投資額の一覧です。参考になれば幸いです。
②の答えは私は先に悪戦苦闘したと書きましたが、少なくともカノープス系の編集ソフトを使っていた人ならNeo3はなんとかなるのでは無いかと思います。私のようになんとかさっき出来たことが次の瞬間もう思い出せないと言った老人ぼけの人間がなんとか作品に漕ぎつけられたのですから、私より若い方なら直ぐ慣れると思います。
　チャレンジして下さい。
　自分がやったからええかっこするなと言われそうですが、やはりやる気があるならハイビジョン化は急ぐべきだと思います。



消費者の目・技術者の目

竹 田 幸 男

　今回は「ＡＶＣ」からは、少し外れますが、ご勘弁願いたいと思います。
　数年前、自宅の水回り改修の折に温水洗浄便座も入れ替えて新しくしました。この商品には「部屋暖房」という機能があって、スイッチを入れるとモーター音とともに温風が吹き出して来ます。消費電力量からすればヘアードライヤー程度の熱源ですから、すぐに個室が暖かくなることは期待できませんが、冬の寒い時期、家の北側にある個室を少しでも暖かくしてくれたら、という思いで使っていました。この部屋暖房のためのスイッチは、１回押すと「オン」になり、もう一度押すと「オフ」になる構成です。

【消費者の目で】

①「部屋暖房」の「オン」スイッチを押しても部屋暖房が働かない場合がある。
②「部屋暖房」の「オン」スイッチを押しても部屋暖房が働かず、しばらくすると働きだす場合がある。
③「部屋暖房」の「オン」スイッチを押して部屋暖房が働いているときに、途中で止まってしまうことがある。
④「部屋暖房」を止める「オフ」スイッチを押しても、すぐには停止しない。

これだけ挙げていくと、消費者の目でみると、この製品は欠陥商品だ！　となってしまいます。

【技術者の目で】
ところが、技術者の目で見ると、この商品は、正しく設計された本来の働きをしているのであろうと思われます。
個室に長年座り続けているうちにこの謎がだんだん解けてきたのです。

①の「部屋暖房の『オン』スイッチを押しても働かない場合がある。」というのは、次のような状況だと思います。
個室に入って「温水洗浄便座」の電源スイッチを入れる。するとヒーターで洗浄のための温水が温められます。この温水はすぐ使うこともあるので大きな電力で短時間に目的の温度まで上げることが必要です。またそれほど電力を使わないと言っても暖房便座を加熱する電力も必要です。一方家庭用のコンセントから使える電力は１．５ｋＷまでです。勢い部屋暖房が後回しにされるのだと考えます。洗浄のための温水が温められ、その分の電力が不要になった時点で部屋暖房が働き始めるのだと思われます。したがって「オンスイッチを押しても（すぐに）部屋暖房が働かない場合がある」ということになってしまいます。そして、
②の『「部屋暖房」の「オン」スイッチを押しても部屋暖房が働かず、しばらくすると働きだす場合がある。」』という事態になるものと思われます。

③の「スイッチを押して部屋暖房が働いているときに、途中で止まってしまうことがある。」については、部屋暖房が働いているときに「温水」を使って洗浄をしたとき、減った温水を補給するために大きな電力を要するヒーターが働くので、電力が不足し、一時的に部屋暖房が止まってしまうものと思われます。

④の「部屋暖房を止めるオフスイッチを押しても、すぐ停止しない。」については、部屋暖房とはヘアドライヤーのようにヒーターの後ろからファンで風を送り出す構造と思われます。このファンは温風を送り出すと同時にヒーターに

対しては冷却効果をもたらしています。オフのスイッチを押してファンをすぐ止めてしまうと、冷却効果が無くなりますから、ヒーターは温風送風中より、さらに高温になるであろうから、安全のためファンはすぐには止めず、ヒーターがある程度の低温になってから止める、と言う設計になっていると思われます。これがオフスイッチを押しても、すぐに止まらない、という不平になると思います。

このような構成になっているので、部屋暖房オンスイッチを押しても働かない場合は、再度スイッチを押しても（この場合、スイッチを押すのが２回目になるのでオフスイッチになり）働かず、そのまま、いつまで経っても部屋暖房は働かない、と言う事態になります。また部屋暖房中に停止させるために「オフ」スイッチを押してもすぐ止まらないので、再度スイッチを押すと、今度は「オン」操作をしたことになり、動作は止まらない状態が続く、などと不本意な結果になり、いらいらしてきます。

【再び消費者の目で】

設計者としては色々な制約から、このようにせざるを得なかったのだと思いますが、やはり消費者としては納得がいかない。スイッチを「オン」にしたら、「ハイ、受け付けましたよ。」という「返事」が欲しい。スイッチを「オフ」にしたら、「ハイ、もうじき止めますよ。」と返事して欲しい。これが無いから長い間いらいらしながら使っていたのです。もちろん「取扱説明書」を見たら「こういうときには・・・こうなりますよ。」と言うことが書いてあるに違いありませんが、それでは余りにも不親切です。誰でもこのような商品は「座って」ボタンを押したら思いのままに動いて欲しいものだ、と思います。私なりの改善案も「座りながら」考えましたが、それをここに書くと、特許のネタを公開するようなものですから、やめておきます。でも今の製品は、もう対策が打ってあるかもしれません。それがわからないだけだ・・・と思いながら、長い「座りの姿勢」から立ち上がることにします。　　■